

【事例 H28-36】 山口県下関市

子どもたちの生きる力を育む「ふくふくハート推進」事業
～笑いで子どもの生きる力を育む教室～

【概要】次世代を担う子どもたちが、将来にわたり、自ら「いのち」を考え、自他の命を尊重するところや他人を思いやるところ、「生きる力」を養い、誰もが笑顔で暮らせるように、お笑い芸人(山口県住みます芸人)”どさけん”と市の職員(専門職)がともに市内の小学校で、笑いという要素をとり入れた「こころ」や「からだ」の健康教室、いのちの教室等を実施した。

【実施主体】 山口県下関市・保健部保健総務課

【大綱の分類】 2) 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す

4) 心の健康づくりを進める

【事業予算】 404 千円 (H27 年度)

【利 点】

- ▼いのちを考える機会の提供によるいじめや自殺対策
- ▼お笑い芸人等の活用による子どもへの心の健康意識の定着と継続
- ▼お笑い芸人等の活用による地域、家庭内での子どもから保護者等への普及啓発
- ▼笑うことによる体や心の健康への効果
- ▼健康づくりや、生活習慣の改善への意識形成
- ▼学校、教育委員会、保健部内各課との横の連携強化

【実施に至るまで】

事業実施の背景・必要性

- ①保健部運営方針「いのちを考え、生きる力を育む」体制づくりの推進
- ②子どもが「笑顔」で暮らすこと、良い生活習慣や「生きる力」を身に付けること、子どもの自尊心を高めること、子どもたちに夢や希望を持ってもらうことなどの必要性
- ③若年層の早い段階からの「いのち」を考える対策の必要性

実施に向けた取り組み(工夫点)

- ①保健部内での横断的な取り組み推進のため、若手職員のプロジェクト会議を設置し、月1回開催を目標に子どもたちが興味を持ち、かつ効果が得られる教室内容を検討
- ②事業趣旨の理解を求めため、山口県住みます芸人及び所属事務所との交渉・調整
- ③教育委員会、学校との連携強化のため、定年退職後の教員を非常勤職員として採用
- ④教育委員会との事前調整や市内小学校校長会での事業説明

- ⑤いのちの教室、健康・生活習慣教室など教室一覧チラシを作成し、各小学校への個別事業説明
- ⑥いのちを考える意識の継続のため、啓発クリアファイル、修了カードの作成・配布
- ⑦教室内容に応じて、子どもたちが興味を持てるような各種シナリオ台本の作成
- ⑧お笑い芸人を下関ふくふく健康大使に任命

具体的な内容

▼教室の時間

- ・小学生が集中できる時間として、1回あたり45分以内としている

▼教室の内容

- ・子ども向け健康・生活習慣教室、いのちの教室、食育教室、衛生教室など

▼その他

- ・教室の中で”ドサ菌マン、どさりんこ王子、どさ子先生、どさこ姫”と個性ある4つのキャラクターにより、小学生に楽しみながら学んでもらう
- ・修了後、ふくふくハート会員証カードとクリアファイルを配布（写真②参照）

【成果】

▼実施校数：小学校23校、児童2,431人、教員・保護者287人（平成27年度実績）

▼児童の感想

- ・楽しくて、話がよく分かった。睡眠を大切にしたいと思った。（1年）
- ・おきてからお日さまにあたったほうがいいことが分かった。おもしろかった。（2年）
- ・芸人さんといっしょに勉強できて良かった。睡眠の大切さ忘れません。（3年）
- ・とても面白かった。教えてもらったことを家族に伝えたい。（4年）
- ・いつもの授業では覚えられないけど、今日はいろいろなことが頭にインプットできた。（4年）
- ・自分の夢をかなえるため、運動や早寝早起き朝ごはんが大切だとわかった。（4年）
- ・笑いながら勉強できた。笑うことや睡眠がとても大切だとわかった。（5年）
- ・いのちの教室を受けて、いろんな命を大切にしようと思った。（5年）
- ・知らないことをたくさん教えてもらった。楽しかった。日々健康でいたい。（6年）
- ・よく寝ることが大切だと分かった。とても面白かった。（6年）

▼保護者・教員の感想

【保護者】

- ・とても楽しく子どもたちの心をつかんでいた。子どもたちも興味を持って聞いていた。
- ・家庭でも子供たちと生活習慣について話していきたい。
- ・堅苦しく進める「健康教室」かと思ったが芸人さんを交えての教室に驚いた。楽しくわかりやすい説明で子どもたちの記憶に残ったと思う。
- ・つつい口うるさくなりがちだが、子供がリラックスできる環境を作ることが大切だと思った。
- ・子どもたちに考えさせながら学べるよう工夫されていてとても良かった。
- ・子どもたちが、楽しく参加しながら学べ、子どもたちが楽しめることが一番と感じた。
- ・いのちの大切さを子ども達が感じていたようだ。
- ・いのちの教室で、親として、1人の人間として命について多くのことを考えさせられた。

【教員】

- ・「夢に向かって頑張ろう！」って言っても、子どもたちに伝わらないことが多かったけど、この教室のないようなら、子どもたちが「できる!」「今の自分にできること」が何か見えたんじゃないかと感じた。
- ・児童の楽しそうな反応がとても良かった。楽しくてあっという間に過ぎたように感じた。
- ・子ども目線での話しに改めて考える時間ができ良かった。
- ・より良い生活習慣を身につけ、「夢」に向かって頑張って生きてほしいと思った。
- ・芸人さんが話をされ、子どもたちにはかなりインパクトがあったようだ。
- ・大切ないのちについて、親子で考える良いきっかけになった。

【補 足】

▼写真①「教室風景」



▼写真②「クリアファイルとカード」



▼写真③下関市保健部キャラクター「ころん」



【課 題】

- ・小規模校での対象者が低学年から高学年まで幅広い児童になる場合、低学年を意識しての教室運営を行っているが、今後は教室の内容や運営方法を工夫する必要がある。

【事業種別】	教室の開催（小学生対象）
【準備期間・人数】	6ヶ月・3人
【予防段階】	1次予防
【自治体規模】	人口 27.4万人 財政規模 1,260億円
【自治体負担率】	68.6%
【事業対象】	小学生及び教員、保護者
【支援対象】	学校（児童等）
【実施主体・問合せ先】	山口県下関市・保健部保健総務課

TEL : 083 (231) 1408

E-mail : hksomuka@city.shimonoseki.lg.jp

※データは全て H27 年度時点のもの

【参考資料・文献】

(ア) 下関市HP

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/www/contents/1466398203039/index.html>